

## F<sub>1</sub> ロベリア スターシップ・スカーレット

学名: *L. speciosa*

種子粒数の目安: 1,100 から 1,500 粒/グラム

### 重要な開花要因:

- 宿根時の USDA 耐寒指標 6 から 10(最低温度: -23 から-1)の条件で初年開花する
- 日長時間との反応: 量的(条件的)長日開花植物であり、14時間の日長時間を限界要因とする
- バーナリゼーション: 不要である

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しい培地を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また培地の初期養分は中庸(0.75mmhos/cm)とする。

#### 播種

288 穴トレイには 1 粒、84 穴程度では 4 粒播きする。パーミキュライトで軽く覆土して、乾燥を防止する。

ステージ 1 - 播種には 7 から 10 日を要する

地温: 18 から 22°C

光条件: オプション(任意)があるが、発芽は向上する

水分: ステージ1では水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度を 95 から 97%で維持する

ステージ 2

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 一貫して適度な湿潤(level 4)を維持する

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で肥料を与える

ステージ 3

地温: 16 から 18°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: やや水分を下げて標準(level 3)で管理する

肥料: 引き続き レート 1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で肥料を与える

PGR(矮化剤): 矮化剤は不要である

ステージ 4

温度: 16 から 18°C

光条件: 54,000 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同様

肥料: 濃度をレート 2(100-175ppm(N)以下、EC を 0.7-1.2mS/cm 以下)まで上げる

**注意点:** プラグ育苗段階では、栄養生長を維持し未成熟な株のまま花が上がってこないよう、13 時間未満の短日条件で管理する。また、長日で温度が高い条件では苗が伸びやすく、移植後の株に強靱さが十分に備わらないこともあるので注意する。

### 鉢上げから出荷まで

#### コンテナサイズ

13cm 前後: 1 本移植/ポット

15 から 18cm: 1, 2 本移植/ポット

18 から 20cm: 3, 4 本移植/ポット

#### 培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また培地の初期養分は中庸(0.75mmhos/cm)とする。

#### 温度(最適温度)

昼間温度: 18 から 21°C

夜間温度: 16 から 18°C

**注意点:** 温度が低い条件(13 から 8°C)では生産期間が長くなる。スターシップは霜による凍害を受けやすい植物なので、最低条件である 3°Cを下回らないように注意して管理する。

#### 光条件(照度)

適正な温度域で管理されている限り、できるだけ高く維持する。

#### 日長時間との関係

スターシップ・スカーレットは条件的長日開花植物である。必然として、開花には 13 時間以上の長日条件が必要である。

この品種は、プラグ育苗段階で長日条件に置かれると株が未成熟のまま花が付き、株全体が細く強靱さが備わらないことがある。したがって育苗は 13 時間未満の条件で計画、実行されることが望ましい。

## かん水

水分レベルは標準(level 3: 培地が茶色ないし黒褐色の色調)を維持する。次のかん水までの間に培地の上部が乾くように管理するが、極端な乾燥ストレスは避ける。また、病気や虫害の発生原因にもなるので、極度な過湿は避ける。

## 肥料

スターシップは概ね適度な肥料供給を好む品種である。レート2(100-190ppm(N)、ECは0.3-1.3mS/cm)の肥料を適宜与える。

## PGR(矮化剤)

矮化剤は概ね不要である。必要であれば、移植後の初期段階でボンザイ(pacllobutrazol)を30ppm、あるいはスマジック(uniconazole)を5ppm処理することで効果が確認されている。

## ピンチ

ピンチは不要である。

## 平均的な生産期間

播種から移植まで(288穴トレイ): 7から9週

※ 84穴トレイを用いるプラグの仕上がりまで数週長くかかる

移植から出荷まで: 12から16週(13時間以上の適切な条件で管理した場合)

播種から開花まで: 19から25週

## 病例等

害虫: ハモグリやアブラムシ、カタツムリ、ナメクジなどに注意

病気: ピシウムやフィトフィトラ、根腐病などに注意

## 花壇や造園への定植について

- USDA耐寒指標6から10(最低温度: -23から-1)の条件で初年開花する。
- 夏から秋にかけて開花する晩生の宿根品種。
- 花壇では、草丈が50から60cm、株の直径が15から20cmにまで育つ。
- スペース(株間)を30から35cmで定植する。

## 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯度・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

**EC値について:** EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。